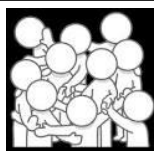
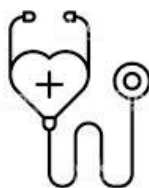


## 我ら 50 期 ここにあり

### 高校の先生方からの金言



先日、居酒屋でたまたま隣に居合わせたグループの話している言葉が耳に入って来て、学校の先生ではないかな？と思い「どこかで会ったことがあるかも」という方に思い切って話しかけてみたら、やっぱり皆さんが高校訪問でお世話になった高校の先生でした。それからは交じり合って席も替わって色々とお話を伺いました。遅刻せず、学校に登校してくれさえいれば、何とか面倒を見て次のステージに送り出せるけど、遅刻が多い生徒や学校に来ない生徒は、残念だけど学校を辞めてしまうことが多いそうです。他にも2つ、目的や目標を持って高校に進学してくれないと毎日の勉強と学校生活を3年間続けることは難しいということ。努力して志望校をつかみ取り、自分の進路を獲得した人ではなく、「努力しないで今の自分のままでいける進路を」と、考えていた人は高校に入ってから大変苦労をして、努力して卒業までこぎつけられないとおっしゃっていました。高校の視点から教えてもらったリアルな金言を皆さんに伝え、これからの中学校生活に活かしてほしいと思います。またそんな機会があればいいなとも思いました。



### 侵害受容③ ～脳で痛みを感じ、心が痛む～

こうして痛みを知覚すると、それが引き金となり、脳内の前帯状皮質という部分の働きで、様々な痛みを感じる。おもしろいのは、このとき身体的な痛みと感情的な痛みが区別されないことだ。腕が傷ついたときも心が傷ついたときも、反応は一緒なのである。他者と共感する能力の高い人ほど、前帯状皮質が活発に働く。つまり、痛みを本当に感じているのだ。事故で手足を切断した人が、よく幻肢痛を訴える。あるはずのない手や足に、突き抜けるような激しい痛みを感じるのだ。こうした事例が、痛みには脳で生まれるものもあることを示す最初の根拠のひとつになった。

### 繰り返すな！失敗の5原則！



失敗には原則があります。事象・行事・出来事というように対象物に合わせた失敗は起こるものです。ある人物がよく起こしてしまう失敗もあります。そんな、トラブル・不祥事・事件・事故・失敗・けがにはパターンがあると思います。これは人の心の問題だと思います。最初の切り口として何から失敗につながるかというと、①直視しない・向き合わない・見ようとしない。次に、②後回し・置いといて。すぐに取り掛からずに自分の前から問題をどけて先送りにする。次に、③人のせい・自分の失敗ではない。開き直って悪いのは自分ではない。次に、④忘れようとする・忘れたい。そんなこと知らないとなしものとする。そんな対応をしていると、⑤繰り返す。ということです。我が事として向き合いなさい、後回しにしてはいけない、人のせいにせずにベクトルを自分に向ける、記憶から抹消できない。ドツボにはまって繰り返さないようにするコツです。髪を染めてくる、ピアスをあける、遅刻する、理由なく欠席する、提出物の期限を守らない、学校にいらないものを持ってくる、人間関係でトラブルになる、これらの原因は、個性やおしゃれではなく実は原因は別にあって、失敗の5原則を繰り返してきたからではないでしょうか？そのまま大丈夫なのか、本気で考えてください。

「本気」  
坂村 真民  
本気になる  
世界が変わってくる  
自分が変わってくる  
変わってこなかったら  
まだまだ本気になっていない証拠だ  
本気な恋  
本気な仕事  
ああ  
人間一度  
こいつを  
つかまんことには